

Case

1 自分でできることを「やって」「せがむ



Q 幼稚園に入った息子が、朝の忙しいときに限って「お母さん、着替えさせて」とせがみます。本当は自分で着替えられるのに。幼稚園バスに乗り遅れないようにしたいので、いつも怒ってばかりです。早く自分のことは自分でできるようにしてほしいです。(3歳男の子、1歳女の子の母)



A

朝の2時間と夕方の2時間は、日本中、いいえ、世界中の家庭でお母さんの怒り声が聞こえる魔の時間帯です。

息子さんは、幼稚園だと自分で着替えができることでしよう。技術的には十分であるにもかかわらず、それでもお母さんに着替えさせてとせがむのですから、これはお母さんに甘えたいのです。

お母さんに頼むということは、怒られる可能性も、待たされる可能性も、拒否される可能性もあります。自分でやったほうが早いかもしれませんが、それでもせがむので

すから、お母さんの手を借りたくて、甘えたくて仕方ないのです。

そんなときは「大事な子だから、やってあげるねー」と言って、さっさと手伝わいいのです。「大事な子」と言うことで、確実に子どもはココロ貯金が貯まります。どうせ家事ができない時間帯ですから、目いっぱい甘えさせてあげましょ。

いっぽう、フツフツ文句を言いながら着替えさせるといのは逆効果です。子どものいちばんの目的は「甘えること」ですから、怒られながら着替えさせてもらっても、ちっとも甘えられた気持ちになりません。目的が達成できないので、手をかえ品をかえ、次々と他の甘えを出してきます。

「こんなこと、いつまでもやっていられないわ」とお思いのことでしょうか。ただでさえ、下の子の世話をしながら、時間までに子どもを送り出したいわけですからね。当然といえは当然の気持ちです。まず二週間、「大事な子だから」と言いながら手をかけてみてください。息子の甘えたい気持ちを尊重していると、「やって」とせがむことは少しずつなくなる可能性が高いです。